



地域づくり
Close-up

若者がつなぐ町おこし

24時間マラソンソフト実行委員会

前向きに行動することが可能性を生んでいく

昨年、上毛町地域づくり活動団体として活動を開始した「24時間マラソンソフト実行委員会」。メンバーは、代表の後藤恭佑さん(垂水)ほか地元の高級生や趣味を同じくして集まった21名。「よらんかい」の日頃からの地域づくり活動に触れ、「自分たちも町をげんきにしたい」と奮い立ち、これが活動を始めたきっかけとなりました。このマラソンソフトを通じて、幅広い年齢層、性別、地域を越えた交流の場を設け、まちの魅力を発信し、活性化することがねらいです。また、東日本震災の被災地に対して何か出来ないかと考え、チャリティイベントを併設することに決めました。日頃からまちづくりの先人の奮闘ぶりに感化された若者メンバーが立ち上がりました。

まず手の届く目標を立てひとつひとつクリアしていく

なにもかもが手探り状態、経験不足は否めません。かつて大平村で隆盛を極めた「24時間ソフトボール大会」を開催していたメンバーにアドバイスを受けることからはじめました。「準備段階から幅広い年齢層との交流やつながりを持ち、参加してくれそうなチームのリストアップや声かけ、

中でも長時間における選手やスタッフのモチベーションを保つ事が大切である」というアドバイスを受け、即実践しました。

しかし、大会の進行や準備などマニュアルがあるわけではありません。メンバーの出した答えは「まず、やってみよう」でした。ただ「初めから24時間は難しいのでは」というメンバーからの意見もあり、半分の「12時間マラソンソフト」を開催する事になりました。

平成23年12月、呼びかけに心よく応えてくれた14チームが町内外から参加しました。計7試合、合間にホームラン競争を楽しみながら各チームがしっかりとたすきをつないでいき、当日は特に混乱もなく終える事ができました。試行という位置づけで行った12時間ソフトを通じて感じたことは、参加チームの確保の難しさでした。本番の24時間ソフトでは、倍近くの参加チームが必要になります。本番を成功させるため、参加チーム数の確保に向けた話し合いが続きました。

ソフトボールでまちおこし プレイボール!

12時間ソフトの課題もふまえ、開催日は帰省者の参加も見込めるGWに決定。また2月から本番に向けて各スポーツ団体や地域の代表の方へ積極的に声かけを行うなど本格的なPR活動を始め

ました。その結果、町内外から24チームの申し込みがありました。

大会前日、参加チームの協力を得ながらメンバーが心を込めて書いた横断幕、五月晴れを願って持ち寄ったこのぼりをバックネットに設置。テントやベンチなどの備品を運び本番前の最終ミーティングが行われました。1年間、みんなで試行錯誤をしながらここまでたどり着く事ができたのは、参加の呼びかけに快く応じてくれた皆さんや大会に賛同し、応援してくれた多くの団体や企業の皆さん、そしてなによりメンバー一人ひとりの小さな積み重ねがあったから。「若者がつなぐ町おこし」いよいよプレイボールです。

5月5日(土)12時、快晴の空のもと、念願の「24時間マラソンソフトボール大会」が上毛町多目的運動広場で開催されました。参加チームは「東上毛チーム」と「西上毛チーム」に分かれて1試合60分のゲームを計16試合行いました。各チームには24時間ゲームに参加する「24時間男」(東上毛チーム矢野さん、西上毛チーム荻野さん)2名が加えられ、熱戦が繰り広げられました。グラウンド外の特設ブースではメンバーが持ち寄った商品でチャリティーバザーも行われました。そして「よらんかい」のみなさんの協力で、今や町の名物となった米粉たこやきをはじめ、からあげやオリジナルの「ケメコおにぎり」などを販売、若者たちのまちおこしをサポートしていました。

試合後に行われるホームラン競争では拍手や歓声が上がりました。また、バックネット裏からメンバーがおもしろおかしい実況中継をするなど、長い時間の中、飽きさせない工夫が盛りだくさんありました。深夜から朝にかけて時折雨が降りま

したが明るくなる頃には天候も回復し「24時間ソフトボール大会」は無事に最終戦までたすきをつなぐことができました。

あすの上毛町につなげる ために

大会を振り返って、小学生から年配まで幅広い年齢層の方に参加してもらったことができたことが大きな収穫だったとのこと。会場におかれた募金箱にも被災地に気持ちが届けとばかりに、たくさんの方の善意が寄せられました。昨年実施した12時間ソフトの収益金を会わせて18,995円を中央共同募金会を通して被災地へ届けました。

こうして町をげんきにしたいと若者たちのメンバーで始まった「24時間マラソンソフトボール大会」はひとつの目標をクリアすることができました。その後の反省会では「今後はこれまでつなげたすきをこれからもより多くの人にどんどんつないでいき、来年度の大会ではもっと多くの方に町を知ってもらい足を運んでもらうことが目標です」と力強く語っていました。そして、この目標を実現させるため来年度の開催に向けて多くの団体と情報交換を積極的に行っていく、大会をグレートアップさせていくそうです。新しい形の交流事業はこれからの町づくりには欠かせない存在になっていくことでしょう。

◎メンバー募集のお知らせ

24時間マラソンソフト実行委員会では一緒に活動するメンバーを募集しています。

問い合わせ先 代表 後藤恭佑さん

☎09047713534